

**マイタイムライン作成地区別ガイドライン**  
**〈大平地区〉**

# 大平地区について

大平地区は、地形的要因による雨水の集中、近年の大雨の局地化、豪雨の長期化などにより、洪水常襲地区となっています。

また、この約 50 年の間の急速な宅地化の進展による自然遊水機能の低下なども、浸水が発生しやすい一因となっています。

ほぼ全域が浸水する想定となっており、計画的かつ迅速な避難が必要となります。

また、陸地部分は背後に急傾斜地を有しており、土砂災害にも警戒が必要です。

■急速な宅地化の進展による自然遊水機能の低下、河川への流出増加・湛水位の上昇



出典：大平地区豪雨災害対策アクションプランより

## 1 該当する単位自治会

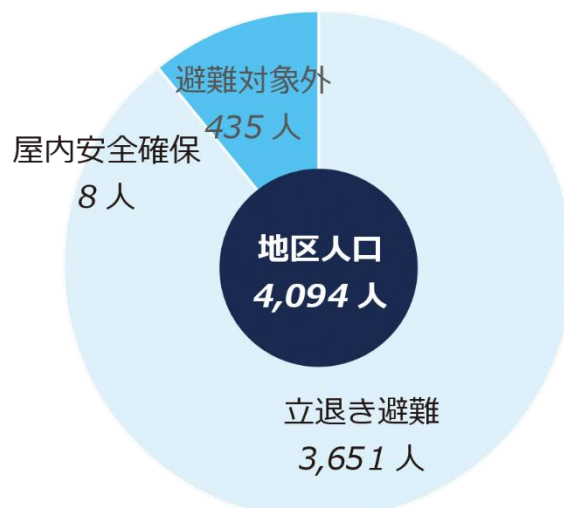
大平第一区、大平第二区、大平第三区、大平第四区、大平第五区、大平第六区、大平第七区、大平第八区、大平第九区、大平第十区、大平第十一区

## 2 地区内で洪水浸水を及ぼす河川

狩野川

## 3 地区周辺の雨量

- 令和元年 10 月台風 19 号  
299mm (10/11~12 日)
- 令和 3 年 7 月豪雨  
348.5mm (7/1~3 日)
- 令和 3 年 9 月豪雨  
177mm (9/1~2 日)



図：地区の避難人口の割合

## 4 これまでの浸水被害の発生状況

種別	浸水家屋数 (戸)		三島観測所雨量 (mm/24 時間)
	床上	床下	
平成 10 年 8 月	14	95	239.0
平成 15 年 8 月	0	59	233.5
平成 16 年 10 月	0	49	252.0
平成 17 年 8 月	0	37	233.0
平成 19 年 9 月	59	89	340.0
平成 22 年 7 月	0	18	140.5
令和元年 7 月	39	125	392.5

出典：大平地区豪雨災害対策アクションプランより

## 5 浸水被害に対する対策

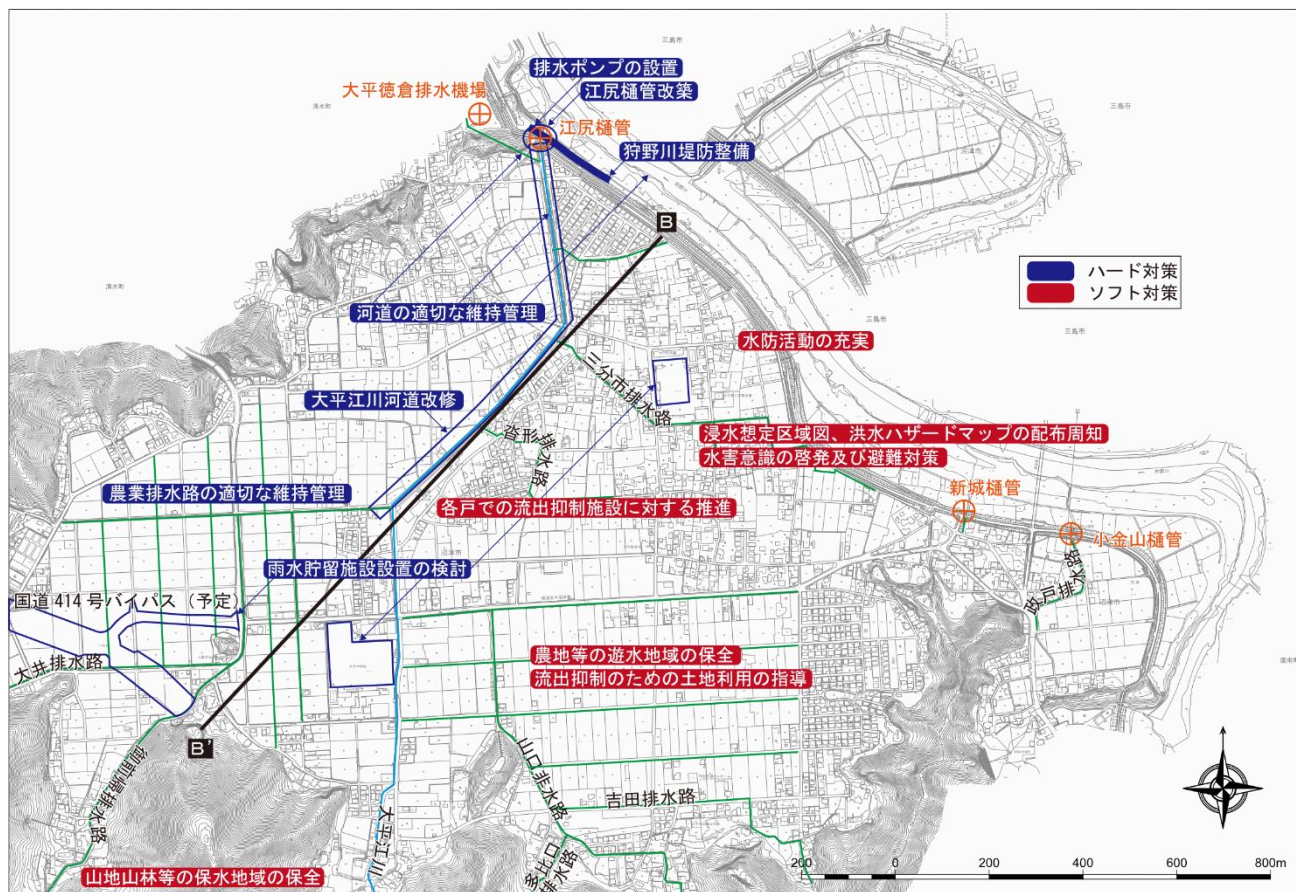
以下のようにハードとソフトを組み合わせた水害対策を実施しています。

### 【ハード】

- ・ 狩野川堤防整備
- ・ 江尻樋管改築
- ・ 雨水貯留施設の設置の検討

### 【ソフト】

- ・ 浸水想定区域図、洪水ハザードマップの配布周知
- ・ 水害意識の啓発及び避難対策



出典：大平地区豪雨災害対策アクションプランより

## 6 地区の避難人口と指定緊急避難場所

地区内の避難人口は、浸水想定区域内の志下地区で、立退き避難が3,651人、屋内安全確保が8人、合計約3,659人となっています。大平地区の人口は4,094人のため、約9割の方が立ち退き避難又は屋内安全確保が必要な状況です。

指定緊急避難場所として大平小学校（大平地区センター）を指定しています。

市が避難情報を発令したときは、大平小学校を避難場所として開設します。

大平小学校は洪水浸水想定区域内に立地するため、状況に応じて上層階へ避難する必要があります。

避難場所	延べ床面積 (㎡)	※収容人数 (人)
大平小学校（大平地区センター）	2,135	452

※収容人数は感染症等に配慮しない形での目安

## 7 洪水地区タイムライン例

狩野川の影響による浸水が想定されており、水位状況を確認しながら避難の検討を行っていく必要があります。

急傾斜地が居住地区の周辺に多く、土砂災害警戒区域・土砂災害特別経過区域に指定されている箇所は、土砂災害警戒情報等に注意が必要です。

洪水浸水想定区域における浸水深は5～10m、浸水想定時間は概ね1～3日となっています（いずれも想定最大規模）。

水位状況は静岡県サイポスレーダーやテレビのdボタン等から最新の情報を確認できます。

河川名称	警戒 レベル	狩野川 徳倉水位	対応	土砂災害
堤防高	5相当	8.4m	自宅が浸水していないならば最新の注意を払って立退き避難 避難行動要支援者がいる場合は2階以上など自宅の高い場所に避難 河川の付近に居住していてすでに付近が浸水している場合は立ち退き避難はしない	土砂災害発生
氾濫危険水位	4相当	7.2m	避難要支援者は避難開始 健全者も立退き避難または屋内安全確保により全員が安全な場所へ避難する	土砂災害警戒情報
避難判断水位	3相当	6.8m	連合自治会長は単位自治会長に、必要に応じ公民館や自治会館を避難所に開設するよう依頼 避難行動要支援者は避難を検討 市の避難所が開設された場合は必要に応じ民生委員や防災指導員等と協力し避難行動要支援者に声掛け又は同行避難	大雨警報
氾濫注意水位	2相当	4.0m	情報ツールによる大雨や気象情報等の状況確認開始 非常持ち出し品の準備	大雨警報
水防団待機水位		3.0m	避難行動要支援者は立ち退き避難の準備、2階以上に住居がある人は2階以上へ移動 民生委員や防災指導員と協力し避難行動要支援者への声掛け	

## 8 地区別カルテ

避難判断水位到達後に避難行動を開始したとしても、おおむね氾濫危険水位到達までに避難場所へたどり着ける形となっています（423 箇所の結節点のうち、353 箇所が避難可能の青色を示しています）が、避難場所の充足率が 12%（避難人口 3,659 人のうち避難所の受入れ可能人数は 452 人）であることなどから、健全者も避難判断水位到達前に非難を開始する必要があります。

想定最大規模の水害が発生したときは、地区のほぼ全域が 3 m 以上浸水する想定となるため、地区外の安全な友人・知人宅等への避難行動を早い段階で開始する必要があります。

# 大平地区 地区別洪水避難カルテ 基本情報

避難先：大平小学校（3階以上）

自治会名	A:立ち退き 避難人口	B:避難先 収容可能人数	充足率 B/A
大平第一区、大平第二区、大平第三区、大平第四区、 大平第五区、大平第六区、大平第七区、大平第八区、 大平第九区、大平第十区、大平第十一区	3,651人	452人	12%

**凡例**

- 避難先
- 避難対象ノード<sup>※1</sup>
- 道路ネットワーク
- × 道路冠水実績箇所
- 連合自治会境界
- 自治会境界

**土砂災害リスク**

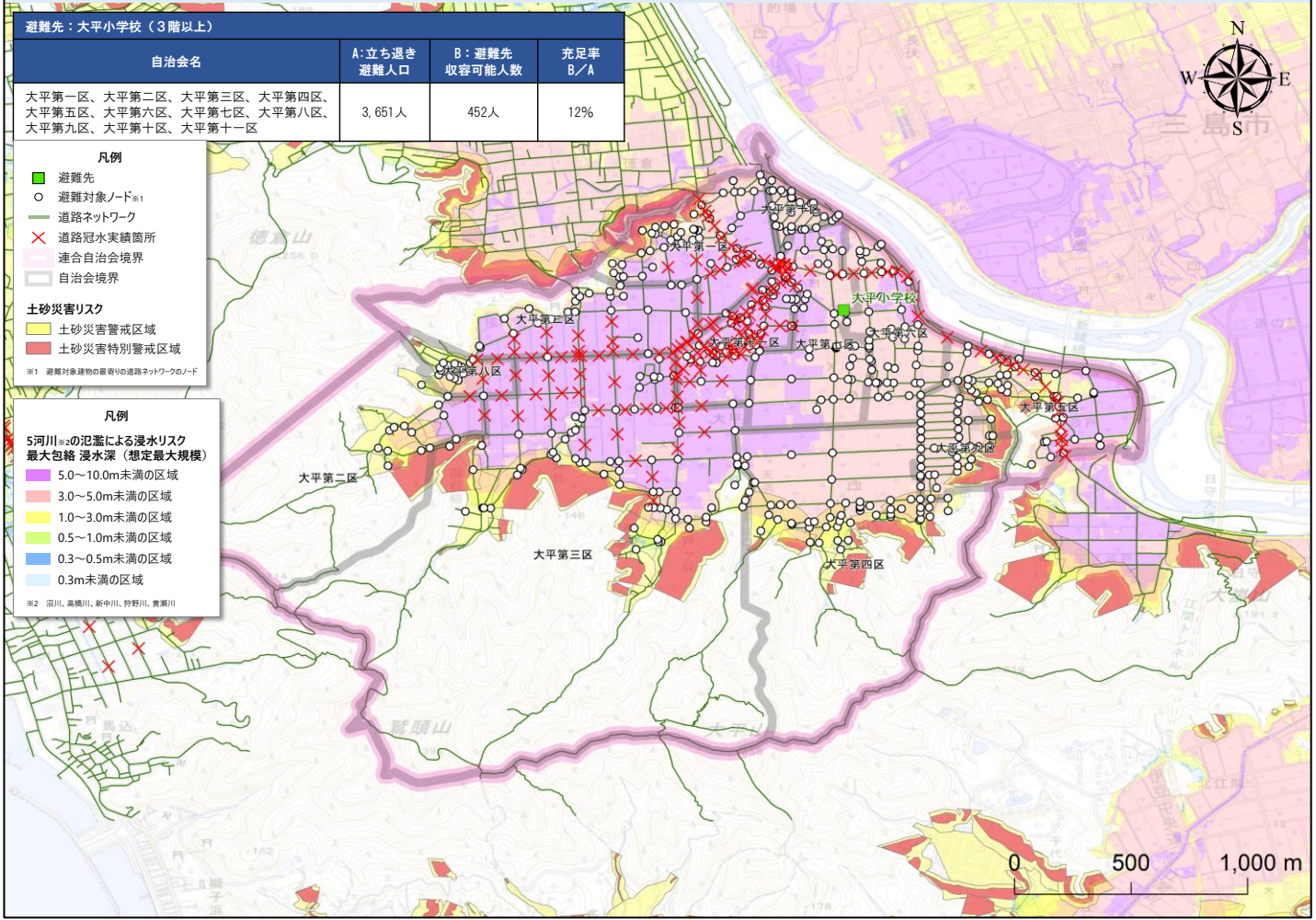
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

※1 避難対象建物の最寄りの道路ネットワークのノード

**凡例**

- 5河川<sup>※2</sup>の氾濫による浸水リスク  
最大包絡 浸水深（想定最大規模）
- 5.0～10.0m未満の区域
  - 3.0～5.0m未満の区域
  - 1.0～3.0m未満の区域
  - 0.5～1.0m未満の区域
  - 0.3～0.5m未満の区域
  - 0.3m未満の区域

※2 沼川、高橋川、新中川、狩野川、奥瀬川



# 大平地区 地区別洪水避難カルテ 住民避難シミュレーション結果(冠水実績箇所:通行不可)

避難先：大平小学校（3階以上）

種別	最長避難距離	避難時間	危険水位設定時における避難想定時間 <sup>※3</sup>	避難可否
一般者	2,567m	約43分	40分（狩野川）	不可
要配慮者		約86分		不可

**凡例**

- 避難先
- 到達可能なノード<sup>※1</sup>
- 到達困難なノード<sup>※2</sup>
- 避難経路
- 道路ネットワーク
- 連合自治会境界
- 自治会境界

**土砂災害リスク**

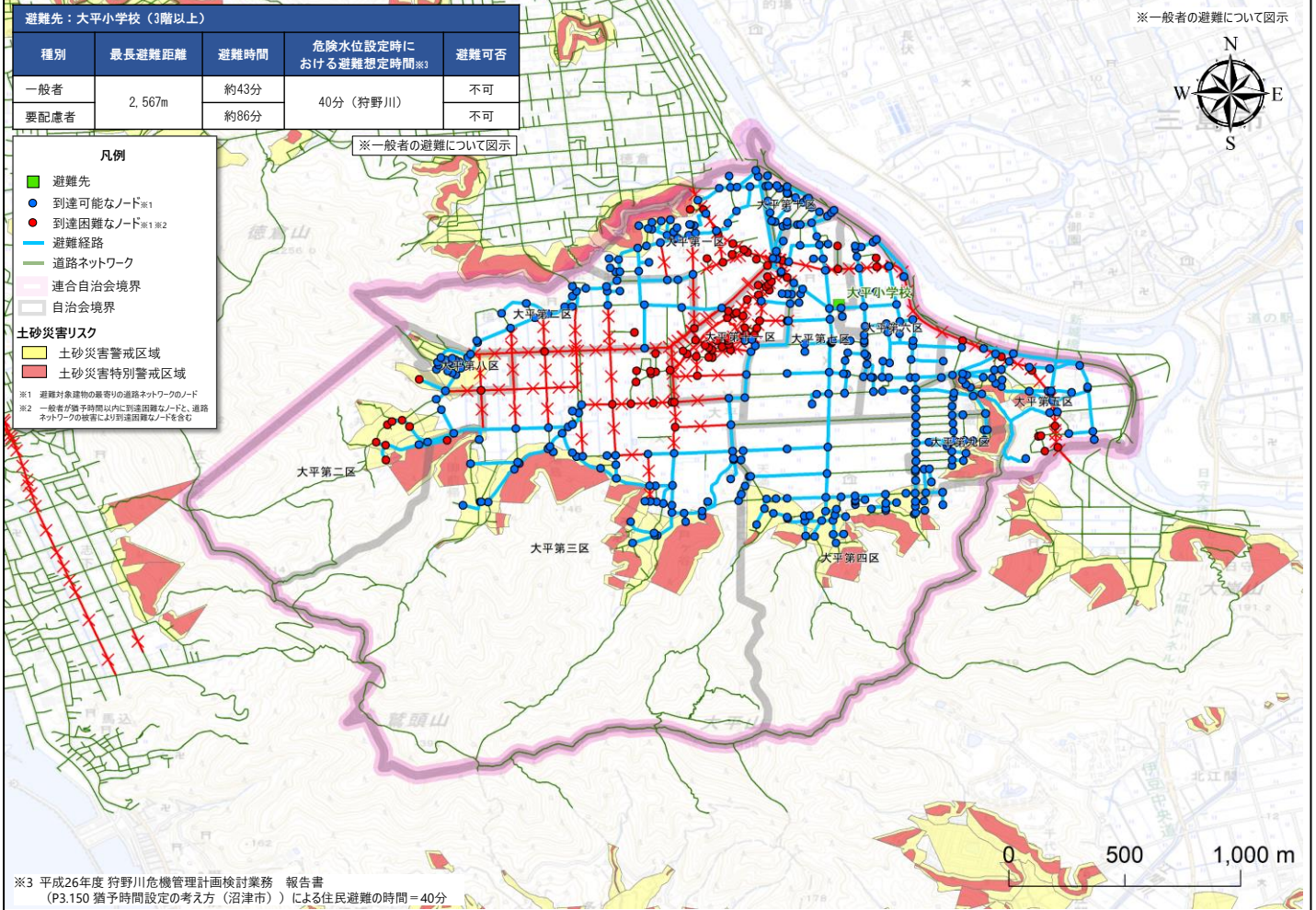
- 土砂災害警戒区域
- 土砂災害特別警戒区域

※1 避難対象建物の最寄りの道路ネットワークのノード

※2 一般者が猶予時間以内に到達困難なノードと、道路ネットワークの被覆により到達困難なノードを含む

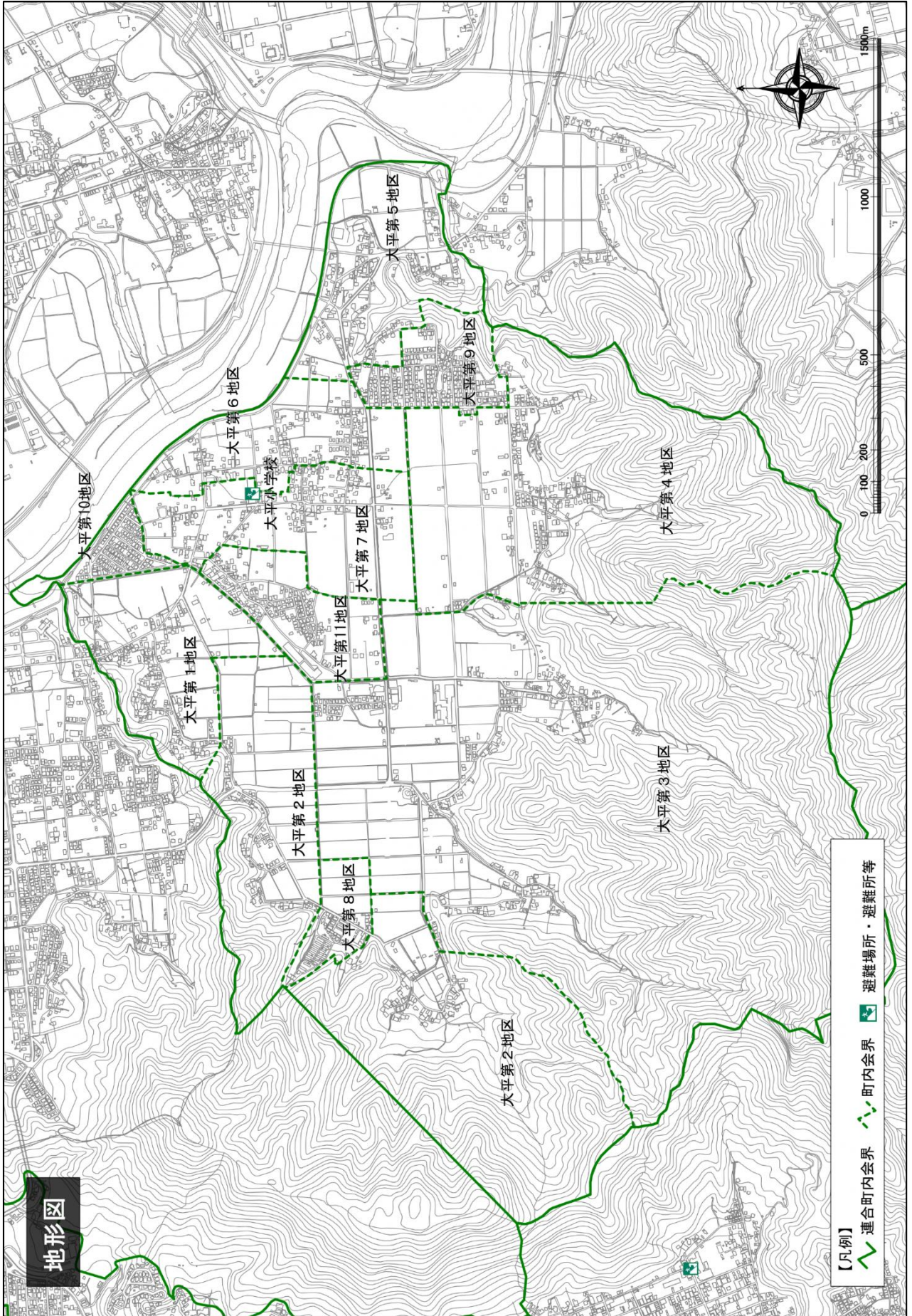
※一般者の避難について図示

※一般者の避難について図示

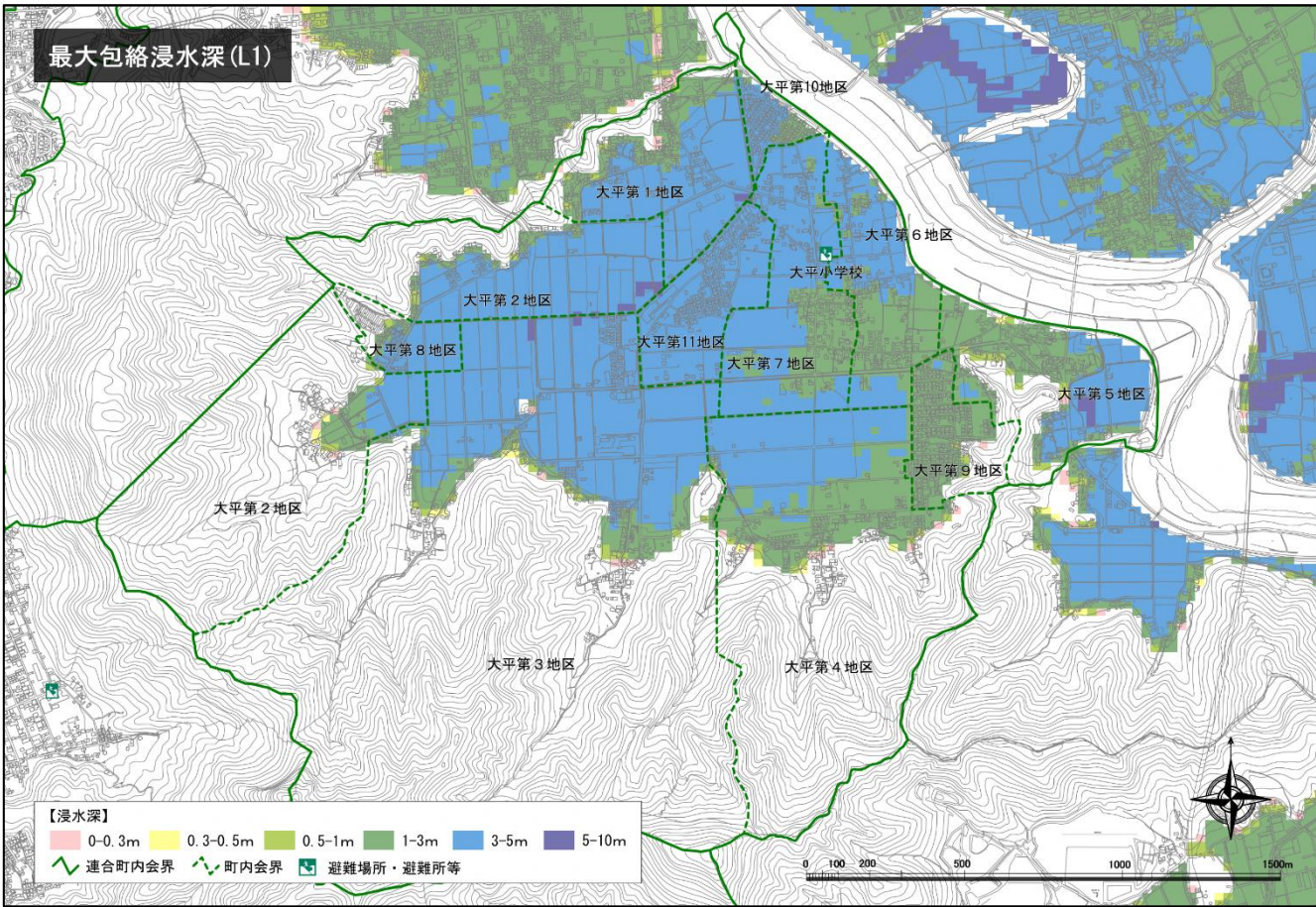
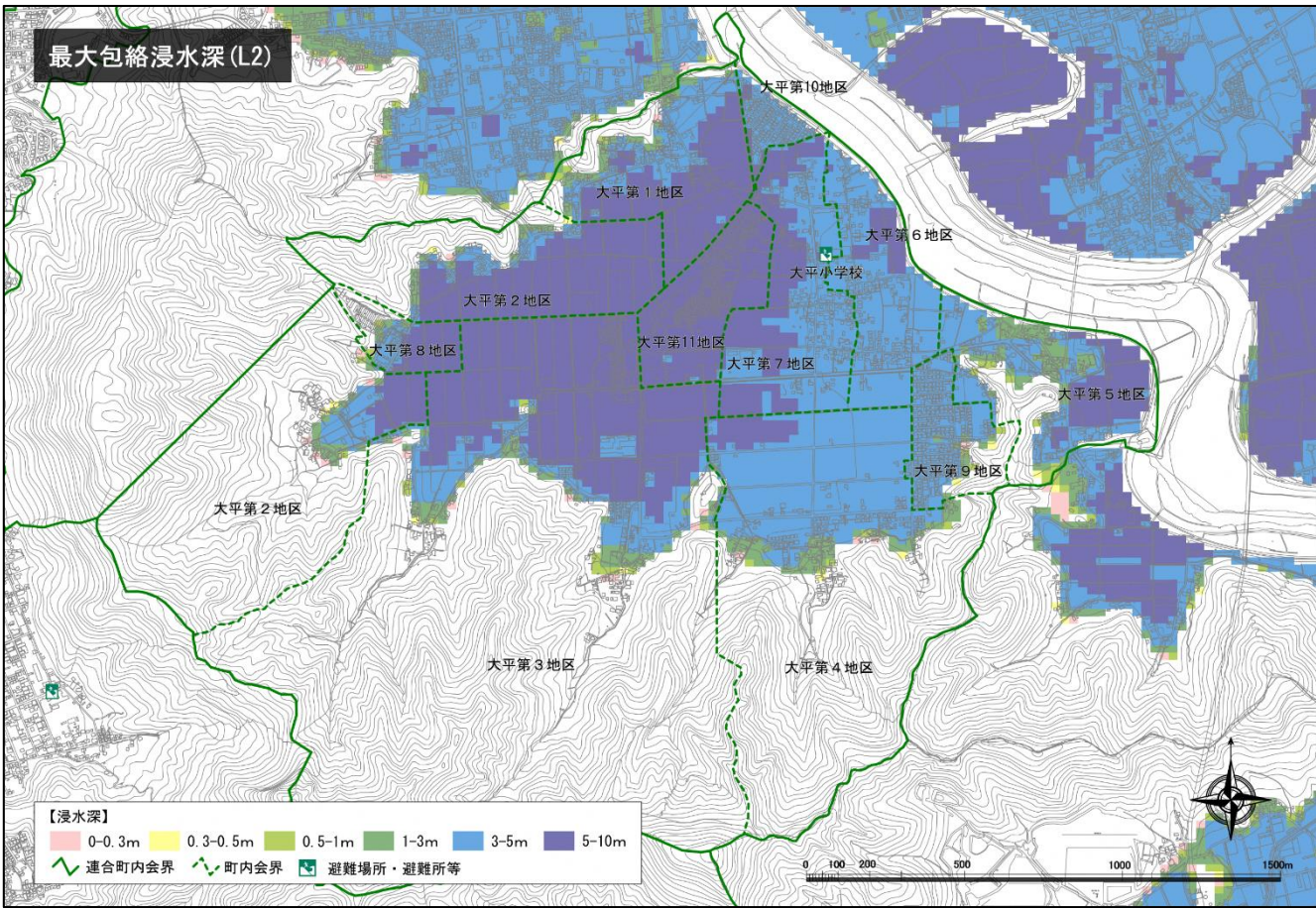


※3 平成26年度 狩野川危機管理計画検討業務 報告書 (P3.150 猶予時間設定の考え方 (沼津市)) による住民避難の時間 = 40分

# 地形図で自宅の位置を確認してみよう

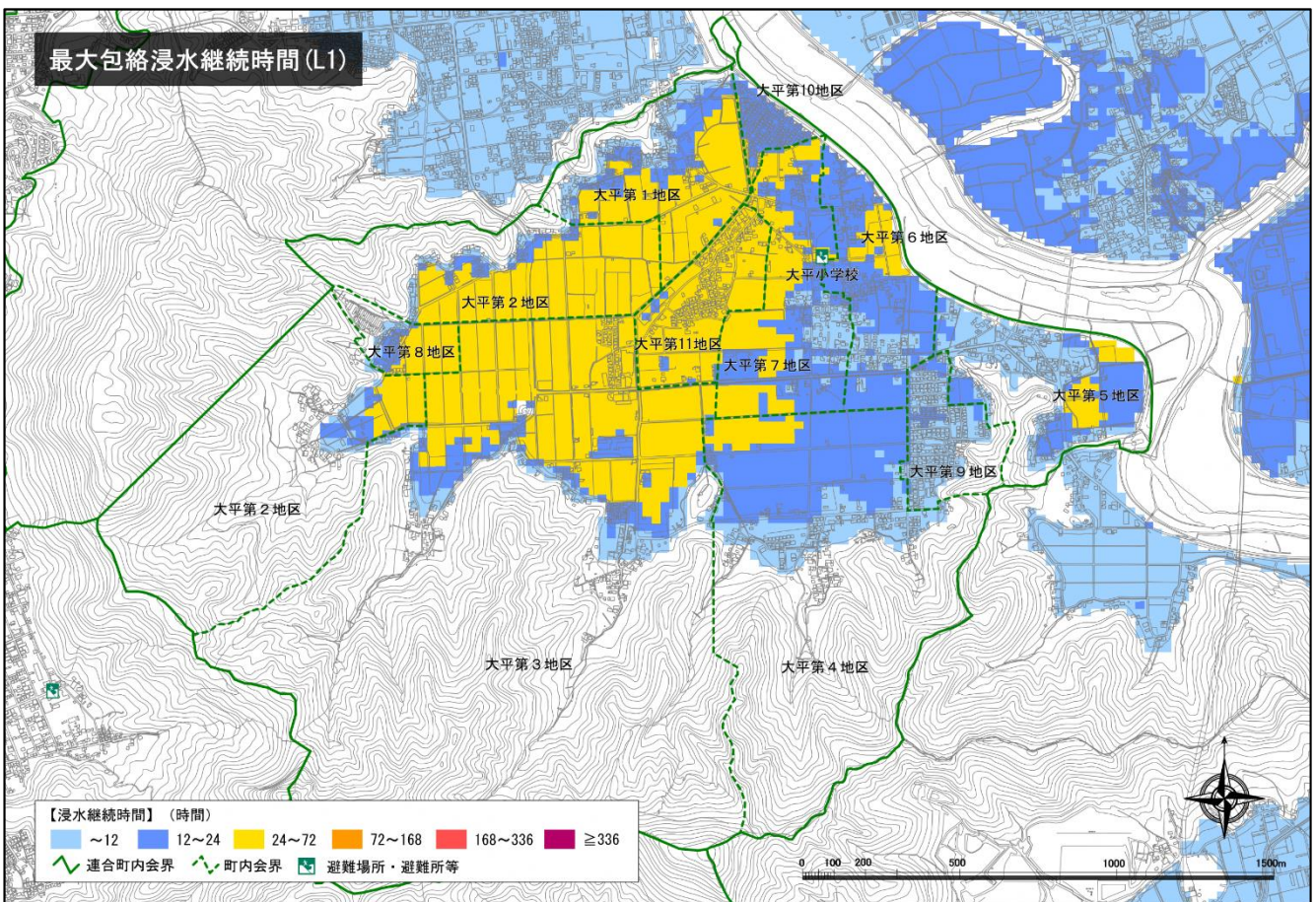
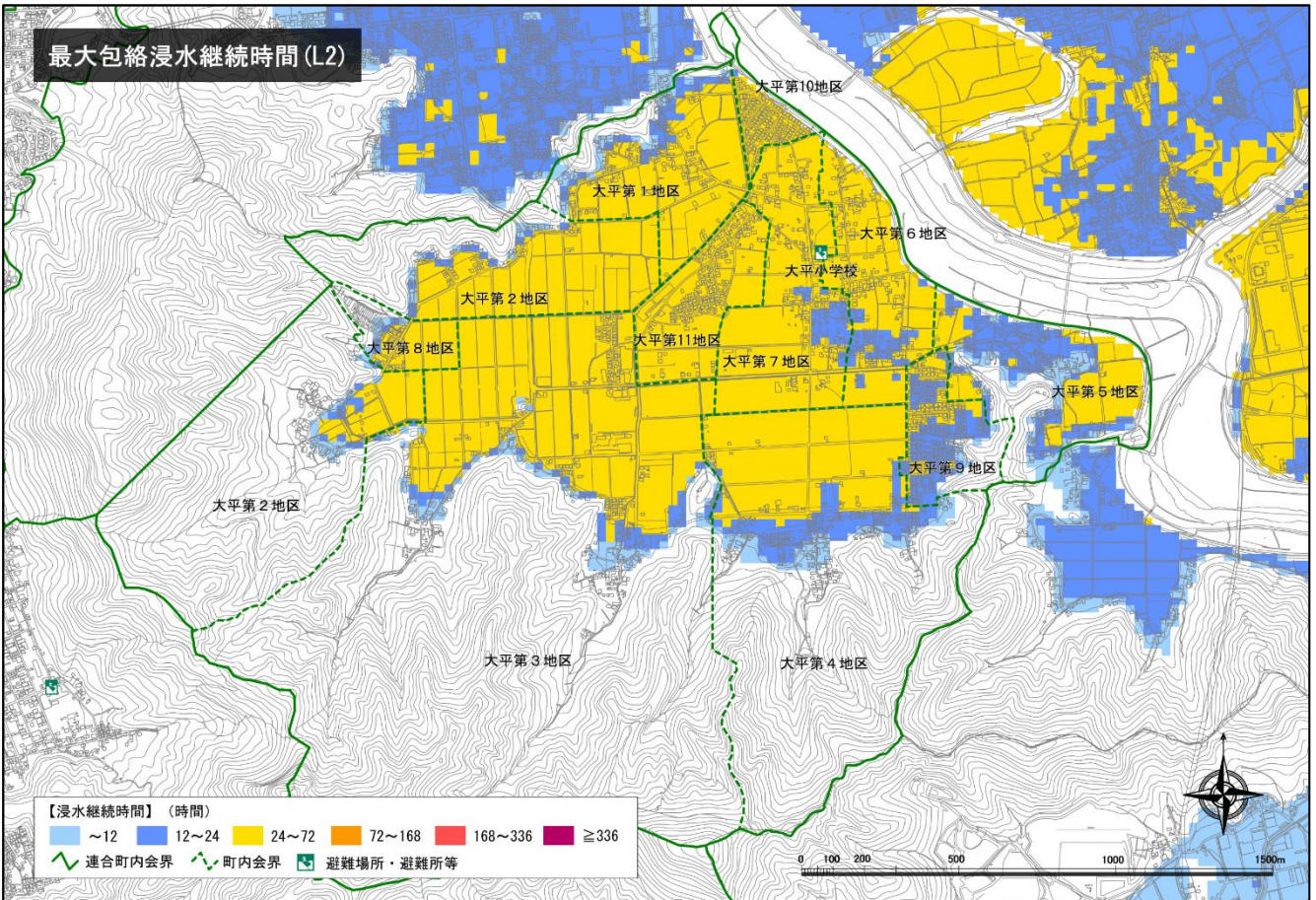


# 浸水範囲と浸水深を確認してみよう

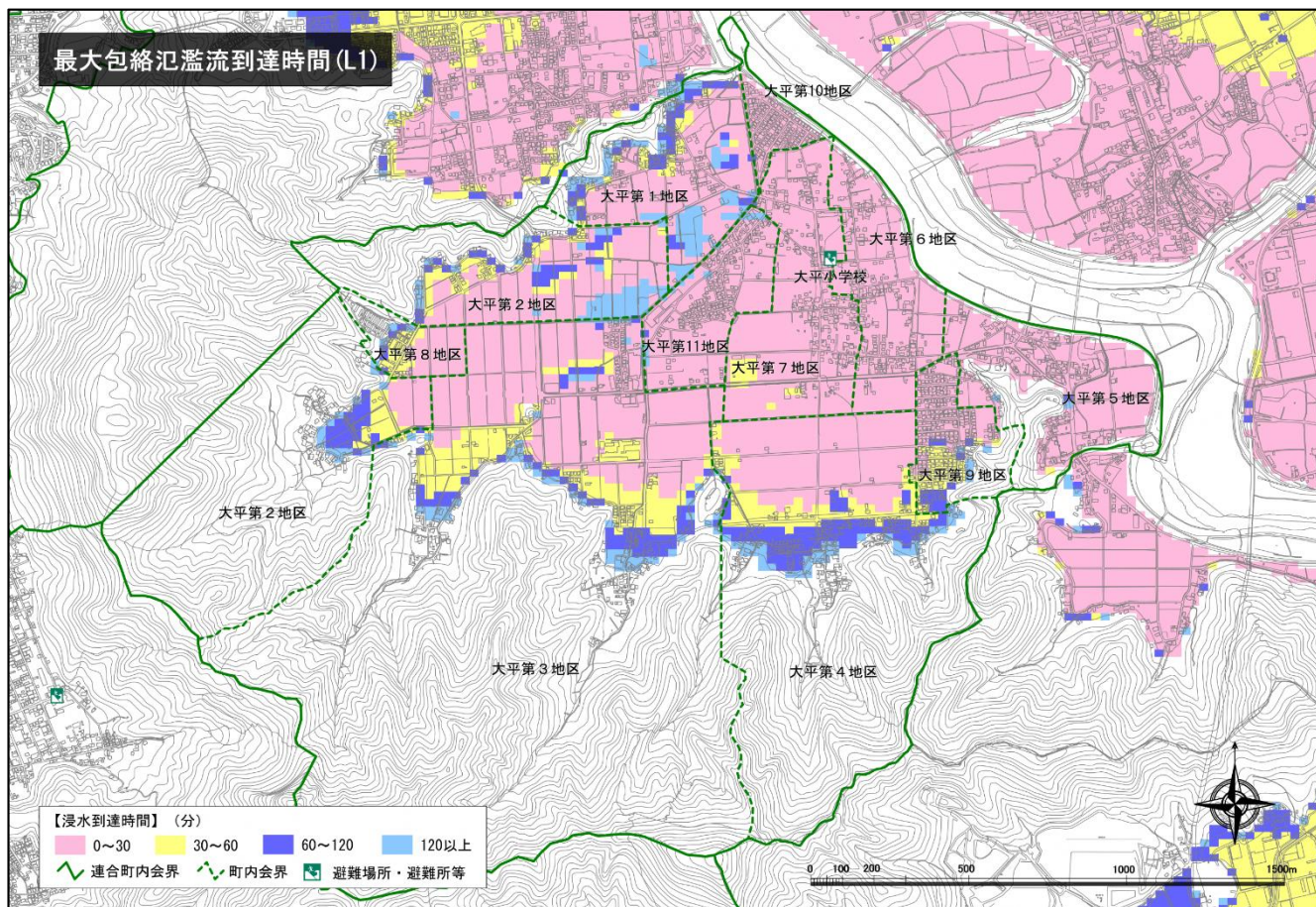
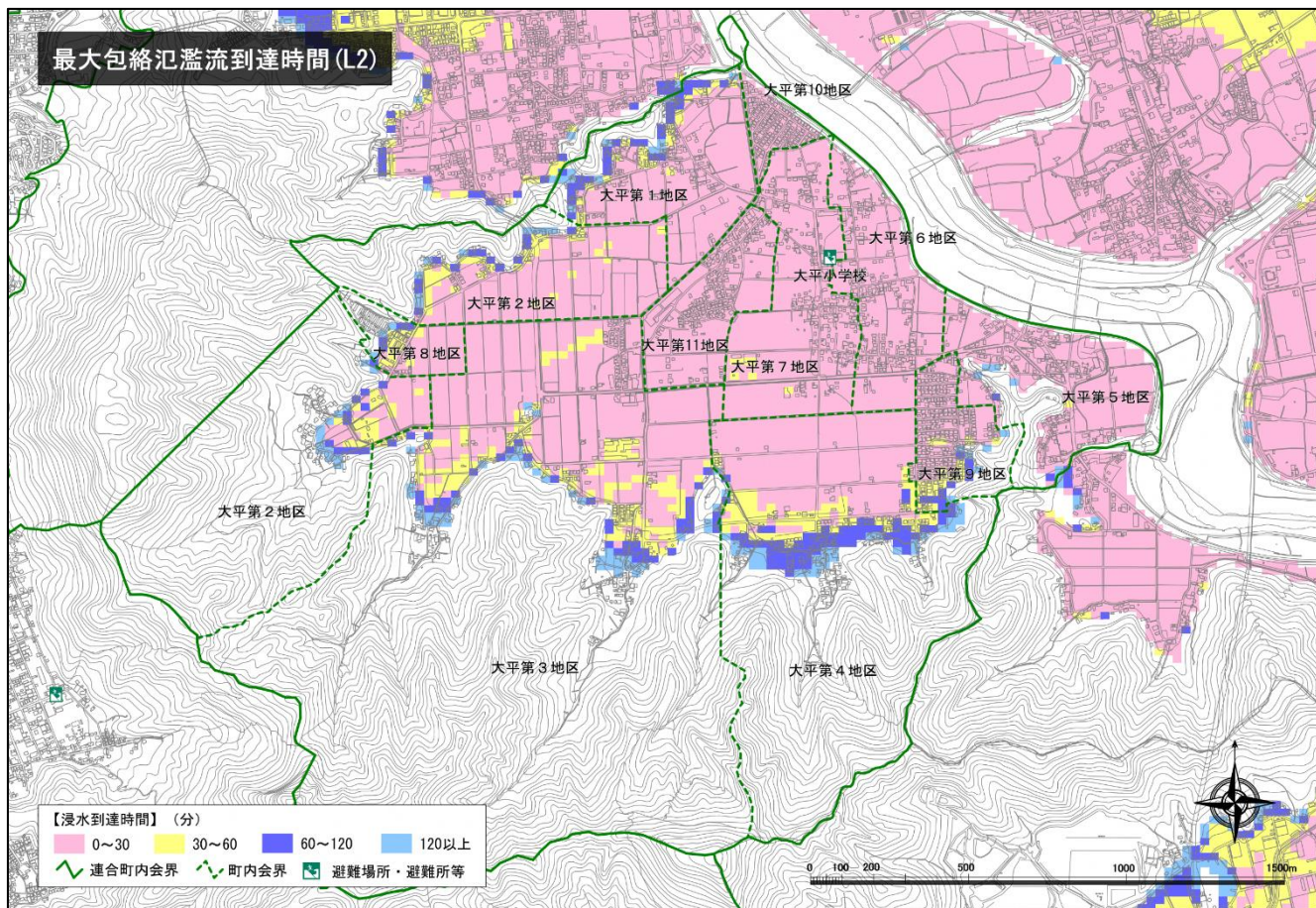




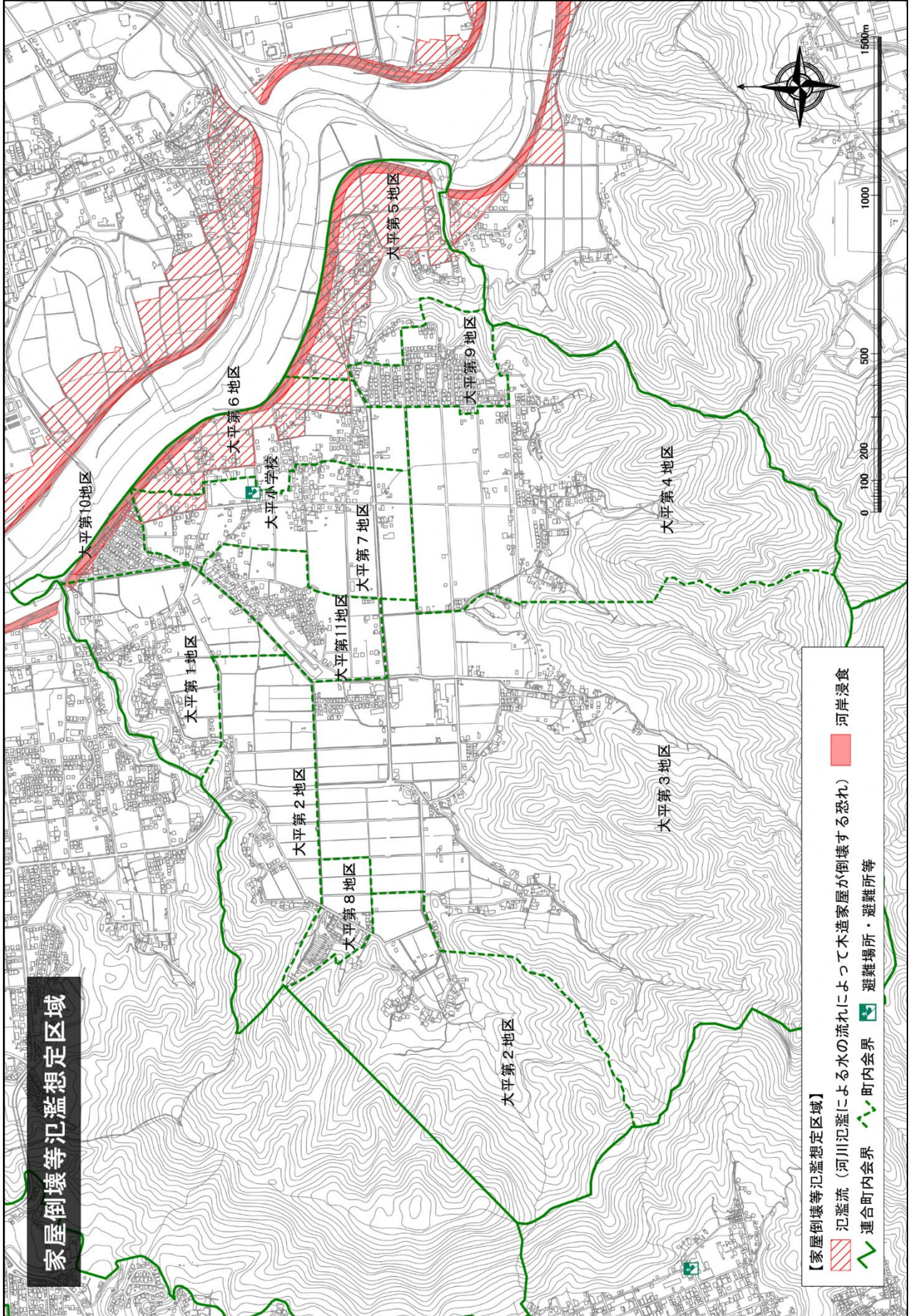
# 浸水継続時間を確認してみよう



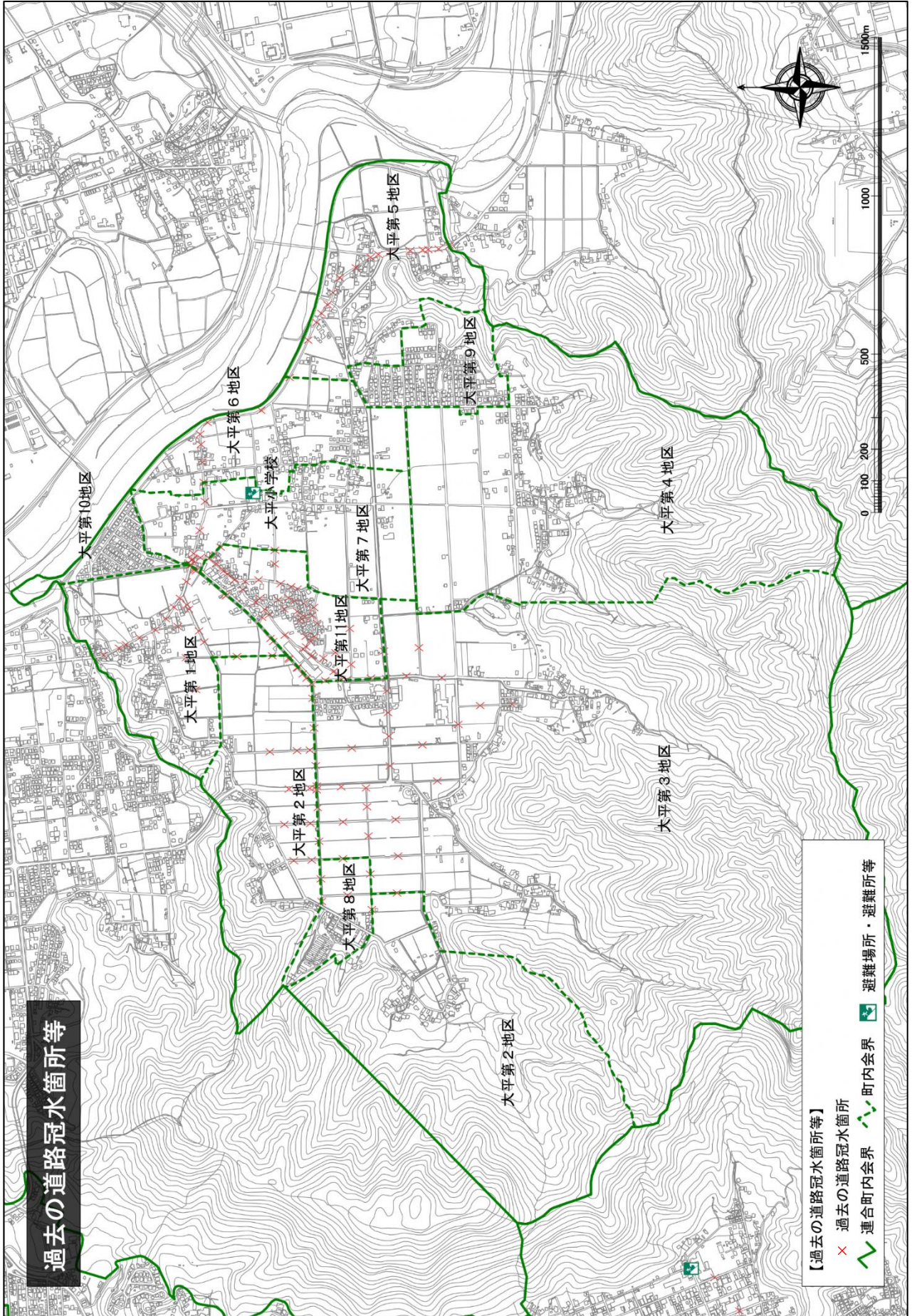
## 氾濫流到達時間を確認してみよう



# 家屋倒壊等氾濫想定区域を確認してみよう



# 過去の浸水箇所を確認してみよう



# 土砂災害ハザードマップを確認してみよう

